

---

# ナイトウィザード二次創作

春頭

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ナイトウィザード二次創作

### 【Nコード】

N1832F

### 【作者名】

春頭

### 【あらすじ】

平凡な大学生、バリィ・バートウス。その彼の元にある夜、エイミーと名乗る女性が現れた。

## 第一話「世界の狭間の魔王様」 1 - 1

1.

「数奇な運命」という言葉がある。普通の両親から生まれ、普通に小学、中学、高校と進み―まあ、その間に両親と死別し、一人暮らしをすることにはなったが―、特に浪人することもなく、大学に進んだ俺は、こんな言葉とは無縁だと思っていた。

あの秋の日、まるで夏に戻ったような、寝苦しい夜までは。

\* \* \*

「眠れねえ……」

その夜、俺ことバリ―・バートウスは眠れない夜を過ごしていた。昨日までは、夏を過ぎた涼しく、眠りやすい夜だったと言うのに、今日はどうしたことだろう。ねっとりまとわりついてくるような空気と、暑さのおかげで、俺はただ横になっているだけでじっとりと汗をかいていた。

狭いアパートの、ベッドの上。ごろりごろりと寝返りをうつ。

時計を見ると、もう午前二時。もう寝ないと、明日に響くと言うのに。寝ようと思えば思っほど、眠れなくなる。俺はそんな悪循環にとらわれていた。

そんな風に思いながら寝返りをうつっていると、不意に俺はなかなか寝付けない、一つの理由に気がついた。

なんだろう。胸が騒ぐ。なぜ、俺はこんなにもあせっているんだろう？

なぜだろう。胸が騒ぐ。時間がない、急げ。何がそう俺に告げているんだろう？

俺は起き上がると、棚に置いてあったエアガンを手にとってベッドに腰かけた。弾倉を抜き、また付ける。スライドを引いて戻し、トリガーを引く。弾を込めていないのでカチリと撃鉄が落ちる音がするだけだが、それでもこの黒い、確かな力の塊を握っているうち、少しずつ心が落ち着いてくる。

そして、俺がなにげなく銃の照準を部屋の一角に向けた時、俺はそこに一人の女性が立っていることに気がついた。

「……へ？」

間拔けな声を上げる俺に、その女性はニコリと微笑むと、

「バリー様。貴方はバリー・バートウス様ですね？」  
と尋ねた。

本当なら、もつと慌てるべきなのだろう。目の前に見知らぬ女性が現れ、しかも俺の名前を知っているのだから。

「あ、ああ……。そうだ。あんたは？」

しかし、俺の口から出てきたのはそんな言葉だった。彼女に向けたばなしになっていた銃も、いつの間にかその銃口を降ろしている。

「私はエイミー<sup>わたし</sup>。 “誘惑者” エイミーと申します。今夜から、貴方に誠心誠意、お仕えさせていただきます。どうかよろしくお願いいたします。ご主人様」

そう言つて、三つ指について深々と頭を下げる。

うん。本来なら、こんな電波なことを言う人なんかつまみ出すべきなのだろう。でも、俺の心は不思議なほど、落ち着いていた。

どうしてだろう。俺は、この人を知っている。そんな風に感じた。「何かご命令がありますか？ ご主人様。どのようなご命令でも、私は完璧にこなして見せますわ」

ふと俺が部屋に目をやると、床中にごみが散らかっていた。まあ、あたりまえだろう。ほとんど部屋の片づけなんてしないんだから。

「じゃあ、部屋のゴミを片付けておいてくれるか？ 朝までにできる所まででいいからさ」

「はい！ お任せください。明日は何時にお目覚めですか？」

「学校が一コマからだから、七時ぐらいかな」

「では、それまでに朝食も用意しておきますわ。私が起こすまで、ゆっくりお休みくださいませ」

俺手伝わなくていいのかなあと思うが、彼女の笑顔を見ていると、それも無粋な気がしてきた。

「わかった。おやすみ」

「おやすみなさいませ」

そう言つと、俺はベッドに横になって目を閉じた。あれほど寝苦しかった部屋は、いつの間にか涼しくなっていた。

そういえば、あのどこで寝る気だろう。俺の部屋にこれ以上寝る所なんてねえぞ。

そう思ったのもつかの間、それも何とかなるだろうと思いなおす。それを最後の思考にして、俺は深い深い眠りへと落ちた。

\* \* \*

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1832f/>

---

ナイトウィザード二次創作

2010年10月11日05時48分発行